



ごみは世に連れ、人に連れ

廃棄物学会副会長 高月 紘

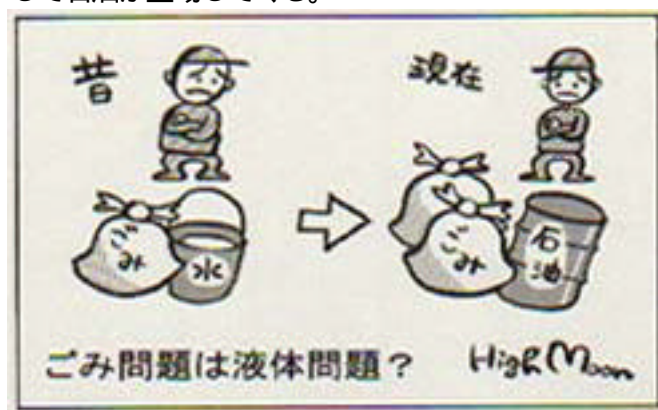


今、私の手元にごみの研究を始めた頃のごみ分析値がある。昭和 40 年代初期 (1965 ~ 1970) はまさに日本が高度成長期に入ったときで、ごみが急激に増加に転じようとしていた頃であった。当時、1 人 1 日当たりの都市ごみ排出量は 500g 程度であったが、ごみ処理で一番やっかいな問題は、ごみ中の水分であった。その頃私は日本の各地でごみ分析を行っていたが、水分を 50% 以上含んでいるごみはさほど珍しくなく、ひどい時には 70% を超えるものもあった。まさに水もしたたるごみで、ごみの収集車がごみ汁を垂れ流して走り、ごみ焼却炉も不完全燃焼で、臭い煙を出し、埋立地も蠅で真っ黒になるほどで住民からは衛生上の苦情が多い時期であった。ごみの組成分析値にやっとプラスチックという項目が追加された頃で、その当時の私の分析ノートには、まだプラスチックという名称でなくビニールとか合成樹脂という項目名が記されていた。ともあれその頃は、ごみ処理は、水分の多いごみをいかに衛生的に処理するかが最大の課題であり、まさにごみの水分との戦いであった。

さて、時は移り、現代のごみは様変わりで、問題であった水分は都市部では 40% 近くまで下がり、代わってプラスチックがごみ中重量比で 10 ~ 20%、容積比で 35 ~ 45% を占める状況になり、俄然プラスチックがごみ処理で大きな課題となってきたのである。プラスチックはかさばり、収集運搬効率を下げ、燃やせば有害ガス、埋め立てても腐らず埋立地の寿命を早めるなど様々な問題を起こしつつあり、容器包装リサイクル法でも「ペットボトル」「その他プラ」で自治体が頭を痛めているやっかいごみとなっている。プラスチックは石油の産物であるのでその意味では今やごみ問題はプラスチックひいては石油との戦いとも言える。

また、現在のごみ問題は従来の公衆衛生面での問

題もさることながら、環境負荷や資源・エネルギー問題として重要な意味を持ちつつあり、いかにごみを減らし、環境負荷を下げつつ資源・エネルギーの枯渇を防ぐかが対策上の大きな課題となってもいる。ここにも、環境負荷や資源・エネルギーのキーワードとして石油が登場してくる。



このようにごみ問題が、水分問題から石油問題へ変化してきたわけであるが、一方その解決策も単に工学的、技術的対応だけでなくやはり経済、社会システムの中での解決策が求められる時代になったのである。

すなわち従来型の施設整備やリサイクルといった後始末的発想から EPR や LCA 的視点を入れた製品アセスメントと言うような設計段階での対策が重要となってきているのである。これはまた、大量生産、大量消費で来た社会システム自体を環境負荷の少ない持続可能社会へ変えなければ根本的な解決ができないことも意味している。

まさに、ごみは世(社会システム)に連れ、人(ライフスタイル)に連れ、変わってきたが、ごみ問題を解決するにもライフスタイル(人)を変え、社会システム(世)を変えなければならないのである。

(京都大学 教授)

申込先：廃棄物学会北海道支部事務局 東海明宏

Fax:011-706-7287, E-mail:tokai@eng.hokudai.ac.jp

下記ＨＰでも案内をしています。ご参照下さい。

<http://kanri.eng.hokudai.ac.jp/hshibu/index.htm>

【ご案内】

○ 北海道大学大学院助教授公募のお知らせ

北海道大学大学院工学研究科では、環境資源工学専攻廃棄物資源工学講座の助教授を下記により公募いたします。

1. 公募人員：助教授 1名
2. 専門分野：廃棄物の発生源管理、リサイクル、適正処理に関する技術的かつ社会的な問題を、フィールド計測、実験、システム解析の多様な方法により、総合的かつ計画的に解決するための実践的な教育・研究分野。
3. 担当講義：大学院では「リサイクルシステム特論」等、同英語コースでは「Recycling Systems of Environmental Resources」等、学部では「計画数理学」、「廃棄物資源工学」等と廃棄物の基礎・応用に関する講義・演習・ゼミナール
4. 応募資格：(1) 上記の専門分野に関して十分な研究指導能力があり、担当講義等を担当でき、衛生工学等の実験分野に経験が豊富な方
(2) 博士の学位を有する方
5. 任用予定：平成13年10月1日以降の早い時期
6. 提出書類：(1) 履歴書 (2) 論文目録

- (3) 代表的論文5編の別刷もしくはコピー(各3部)
- (4) 現在までの研究教育活動及び学会活動の内容と成果(2000字程度)
- (5) 本学助教授に任用された場合の今後の研究計画及び教育活動に関する展望と抱負(2000字程度)
- (6) 応募者について参考意見を伺える方1名の推薦書と氏名及び連絡先(所属、役職、住所等)

詳細は下記に問合せ、または北海道大学大学院工学研究科のホームページ(<http://www.eng.hokudai.ac.jp>)のお知らせ欄「人事公募」をご覧ください。

7. 公募締切：平成13年7月2日(月) 必着
8. 応募書類送付先：〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学工学研究科・工学部総務課人事掛
(封筒表面に「教官公募応募書類(No.13-2)」と明記、書留で郵送。応募書類は原則として返却いたしません。)
9. 問合せ先：〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究科 環境資源工学専攻 廃棄物資源工学講座 恒川昌美

Fax: 011-716-6175, E-mail: tunekawa@eng.hokudai.ac.jp

リサイクルシステム・技術研究部会へのお誘い

平成13年度から研究委員会の新たな研究部会として「リサイクルシステム・技術研究部会」が設置されました。リサイクルシステム(制度・社会・地域等)やシステムを支える技術などに関心のある会員の参加をお待ちいたします。参加希望の方は、下記まで氏名、勤務先所属、TEL、FAX、E-mail アドレスをご連絡下さい。

連絡先 ㈱エックス都市研究所 山田 青山

TEL: 03-5956-7503 FAX: 03-5956-7523

E-mail: yamada@exri.co.jp

廃棄物学会編集委員会住所が下記のとおり変更になりました。

〒606-8317 京都府京都市左京区吉田本町2-7-4
サン・ミッシェル吉田203

会 員 状 況	
	H13.4.30現在 ()内は、H13.3.31以降の増減
正 会 員	3,425 (22)
学生会員	224 (-11)
外国人会員(DM)	19 (0)
公益会員	113 (2)
賛助会員	208 (7)
計	3,989 (20)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.62 平成13年5月1日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F

Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

R100

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsme/index.html>

古紙配合率100%再生紙を使用しています

○ (社)日本機械学会 廃棄物学会協賛 特別セミナー「最近の廃棄物処理技術」

開催日：平成13年6月8日(金) 9:30~

場 所：発明会館ホール(東京都港区)

聴講料：会員10,000円 学生会員5,000円(教材、昼食代込)

問合せ：(社)日本機械学会 Tel. 03-5360-3500

事務局だより

桜のあでやかな競演も終わり、清々しい青葉が目映る季節となりました。21世紀の最初の年度がスタートしましたが、廃棄物の分野では循環型社会形成や処理に関する多くの法律の施行もスタートしました(家電リサイクル法、改正リサイクル法、グリーン購入法、化学物質管理促進法、廃棄物処理法の改正部分)。また、近々PCBの処理について特別措置法も制定される予定になっています。これらの法律は、循環型社会形成や廃棄物の処理に関する制度を法律にしたもので、社会経済に大きな影響を与えます。例えば家電リサイクル法に関しては、3月に家電製品の駆け込み購入や粗大ゴミ排出量増大、4月に入っては個人や処理業者の不法投棄の報道がなされています。また、小売店では運搬費の値下げ競争も起きています。このように、廃棄物の分野ではどんどん課題が出現します。学会の活躍する場合は、増えることはあれ、減ることはありません。廃棄物学会も会員の増加が頭打ちの状況になり、費用対効果の議論が各委員会でも始まっています。しかし、上記の動向から廃棄物に関与する人は増えているはずで、皆で同志を増やしましょう。

(片柳 健一)

